

樹医からのアドバイス (Vol.20)

～まもなくサクラの季節がやってきます～

出雲市樹医センター

樹医 永瀬 明

サクラは日本の文化に馴染みの深い植物です。公式には国花ではないものの、国花の一つであるかのように扱われています。

サクラの原産地はヒマラヤ近郊と考えられ、太古の時代には石斧の柄、弓に巻かれた樹皮に使われ、古墳から出土しています。

【文学・民衆とのあゆみ】

花の持つ風情・優雅さから、奈良・平安時代には、古事記・万葉集・古今和歌集に詠まれて文学と関わりとともに、花見の文化が始まります。鎌倉・室町時代になると盛んに植えられ、詩歌に詠まれ、花見の宴が催され、秀吉の「吉野の花見」「醍醐の花見」が有名です。

江戸時代になると、俳句・長唄・歌舞伎へとつながり、花見の宴は民衆にも広がります。今日では多くの外国の人にも愛されています。

【開花までにしておきたい作業】

休眠期のせん定は木の中の水分も少なく、また、腐朽菌も活発ではないので、この時期に「枯れた枝・枝先が垂れ下がり花芽の少ない芽の無い枝・小枝がホウキ状になっている枝」を切ります。作業後、切り口から腐朽菌の侵入を防ぐために癒合剤を塗りましょう。

【病虫害の活動】

病虫害の活動の多くは、気温20～23℃、湿度50～80%の頃が最も活動が旺盛とされています。観察は気象状況にもよりますが、4月の中旬頃から注視し初期の対処が重要です。



出雲市の自慢 稗原町の橋詰長者の桜